

令和3年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	減災ナースながの 地域防災事業
事業主体 (連絡先)	減災ナースながの (清泉女学院大学 長野駅東口キャンパス北村研究室)
事業区分	(4) 安全・安心な地域づくり
事業タイプ	ソフト
総事業費	1,084,453 円 (うち支援金 : 840,000 円)

事業内容

1. 減災ナース版災害時住民支え合いマップ作成 (中止)
2. マニュアル案作成 (2/23 避難訓練用)
3. 避難訓練の実施 : 地域対象 (中止)
4. 避難訓練の実施 : 中学校対象 (2/24)
5. マニュアルを作成 (中止)
6. 報告会の開催 (3/5)
7. 災害時の電力確保の検討 (2/23)
8. ホームページを新規作成(3/3)

※1. 3. 5 は新型コロナウイルス感染拡大のため中止



【避難訓練の様子】

【目標・ねらい】

- ①地域の防災知識・意欲の向上
- ②多職種との連携による防災力の向上

事業効果

- 2) シナリオやアクションカードにより、各自の役割が明確になった。マニュアル案を作成し課題を明確にすることができた。
- 4) 参加した職員に医療的ケア児の災害時の具体的な動きについて知識と意欲の向上が見られた。
- 6) 昨年比 148%の参加があり、多職種や福島や熊本等の被災地域をはじめとする多地域からの参加があり、意見交換も行われ、参加者の防災への関心の高まりがみられた。
- 7) 災害時の電力確保の検討) 電力確保の利点や課題について多職種で共通の認識を得られた。
- 8) 時間や場所にとらわれず、多くの人に地域防災への取り組みや方法について情報発信する交流の拠点を整備することができた。

※自己評価【B】

【理由】

- ・コロナにより中止を余儀なくされた事業があった。
- ・報告会は参加者が前年比 148%の増加となった。多職種・多地域の方が参加し、情報共有の場となった。

今後の取り組み

- 今年度の課題をふまえ、来年度は下記を実施する。
- ・再度避難訓練を実施 (中学校)
 - ・マニュアル案を修正、加筆しマニュアルを作成

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

令和3年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	学生連携による被災地復興支援と地域防災事業
事業主体 (連絡先)	被災地を写真でつなぐ実行委員会 080-6368-1924
事業区分	安心・安全な地域づくり
事業タイプ	ソフト・ハード
総事業費	544,872円 (うち支援金: 429,000円)

事業内容

台風第19号からの被災地支援に学生が関わるとともに、これから発生し得る災害に対して備え、有事の際には活動できる繋がりを構築する。

●復興支援活動

学生とともに、被災地域で水に浸かってしまった写真の洗浄や、住民の生活基盤の復興のお手伝いを行う。

●学生防災リーダー養成事業

学生が楽しみながら防災や災害支援について学び、平時から多くの学生が連携し、主体的に防災活動・災害支援に携わるための基盤と関係を構築する。

HUG/クロスロードゲーム/災害福祉/傾聴セミナー 等

事業効果

- ①台風第19号災害より、災害ボラに参加している学生の他、「発災時は動けなかったけれど、何かしたかった」という学生も含め、地元の復興に関わる機会と、それによる地域住民との交流の機会を創出できた。
- ②学生防災リーダー養成事業により、災害の発生の仕事等の概念から避難所体験等の実践まで、幅広い学びを提供でき、県外の防災活動に関わる学生・若者との交流も行うことができた。
- ③子どもが防災イベントに参加することで、引率した保護者も防災の知識を深める機会となった。

今後の取り組み

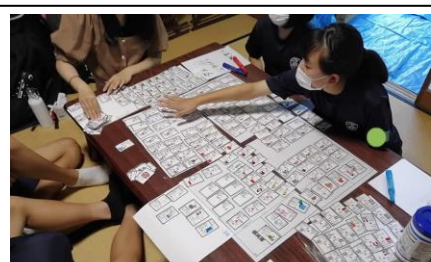
今年度の事業では、11名の学生防災リーダー養成修了者が生まれ、3名の学生防災リーダーが主体的に関わるようになった。今年度事業は、団体スタッフ主導のもと、生まれた学生防災リーダーがサポートする形で養成事業を行ったが、次年度からは、養成事業を修了した学生防災リーダーが各回を運営し、学生主体で研修もできるよう団体スタッフはサポートしたい。

また、団体の支部等の機能を活かして、長野県での学生防災リーダー養成事業をモデルとして、他県でも多くの学生防災リーダーを養成し、全国の防災に興味のある学生が交流できる場所を創っていきたいと考える。日常のなかで、より多くの学生が繋がり、社会人になった際にも繋がり続けられる基盤を整えていきたい。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある



【避難所運営ゲームHUGに取り組む中学生たち】

【目標・ねらい】

- ①復興に学生が関わる機会を創る。
- ②地域防災を担う人材を育成する。
- ③親子で防災について考える機会を創る。

※自己評価【A】

【理由】

- ・延べ173人の参加があり、うち、11名が全プログラムを終え、3名が主体的に関わるようになった。
- ・イベントに参加した子どもとともに、保護者が防災に関わる機会を創ることができた。